

ユーザ目線に立ったサービス提供 の為の理想的な教育支援のあり方 ～コミュニケーションの観点から～

第5分科会

(4) 高度化する教育研究をいかに支援するか

課題

- * 大学統合による出身大間の問題
- * 運用窓口の統合のあり方
- * ドキュメント類の不整備(コストの問題でカット)
- * サーバの増加
- * リリース後のトラブル(テスト起因)
- * システムの統合(認証)
- * 個々の研究に対するサポートがない
- * 学部による要求システムの違い
- * 統合系の話は上からの声的大事(新規事業)

- * 新規立ち上げたシステムが使われない(宣伝の重要性)
- * 新技術の広め方(売り込みから、一部の先生が限定的に開始する)

目的

1. ユーザ目線に立ったサービス提供
ユーザの積極的参加により使われるサービスとする
優先順位を明確化し仕事の効率化を図る
2. 既存サービスの周知
既存サービスの周知を図ることにより、より多くのユーザに有効活用してもらおう
フィードバックを得て次期システムにつなげる
3. 情報発信
情報発信することにより社会貢献を図る
共同研究等を促進する

目的

4. 教職員のコミュニケーション
教職員間のコミュニケーションを密にすることで、教育支援の向上を図る
5. 経営層とのコミュニケーション
経営層と情報共有を行うことで、組織として迅速で的確な判断を図る

手段

1. ユーザ目線に立ったサービス提供

- 学生サポートの強化
(成績データベースからある要件で学生を抽出する等)
- システムの共通化による利便性向上
(認証統合や学生証のICカード導入等)
- 要望の定期的なヒアリング (Twitterの活用)
- 新規事業への学生の参加 (HPの共同制作等)
- ご意見箱の設置
- 新しいITツールの活用 (iPad等)

手段

2. 既存サービスの周知

- 勉強会の開催
- 知恵袋的な掲示板の導入

3. 情報発信

- 研究者情報の発信
- 良い授業の公開化
- 現場からの要望の公開

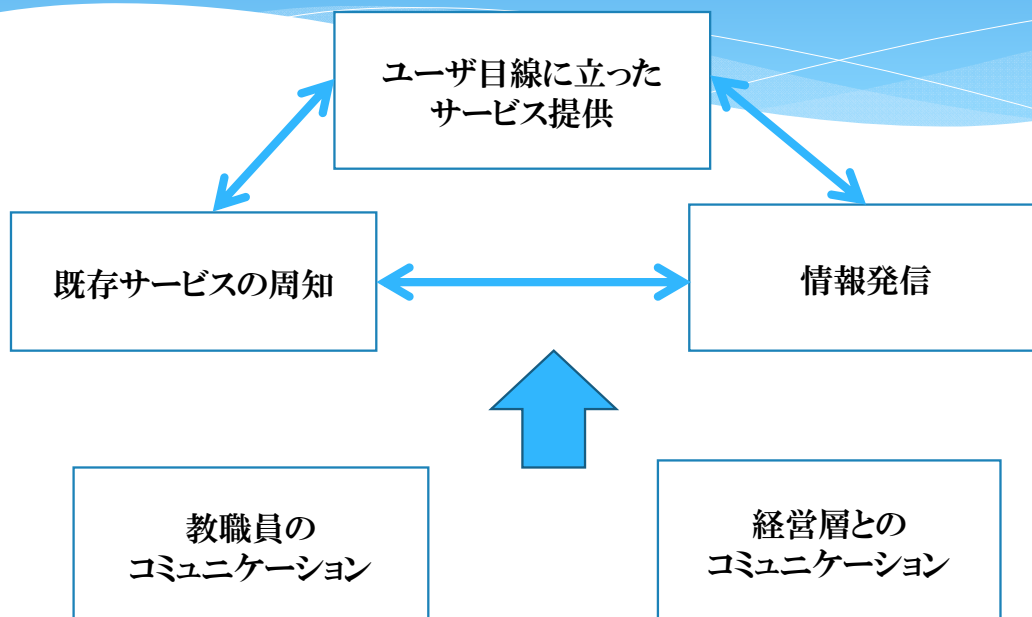
手段

4. 教職員のコミュニケーション

- 情報共有のための環境提供
- 新しいコミュニケーションツールの導入
(TV会議、web会議、チャット等)
- 共同研修会の開催
- 教員と職員の共同研究の活性化

5. 経営層とのコミュニケーション

- 経営層との意見交換会の活性化
- 適切な情報の提供



最後に

* コミュニケーションの質を向上



* 情報の共有化を図る



* ユーザ視点を忘れない企画・設計・運用



* ユーザ目線に立ち、高度化する教育研究に対し、柔軟かつ適切に支援していく

最後に

気づき

教職協働

質の保障

学内ICTへの反映

| 目的／対象 | 教職員 | 学生 | その他 |
|----------------------------------|---|---|---|
| ニーズの取込 (ユーザ目線に 立ったサービスの提供) | <ul style="list-style-type: none"> 成績データベースからある条件で学生を抽出する 学生証のICカード化 要望の定期的なヒアリング | <ul style="list-style-type: none"> 国際化対応 環境整備 要望の評価、基準の明確化 学生が気軽に要望や意見を言えるようにツイッターを活用する 新規事業への学生参加 | <ul style="list-style-type: none"> 新たなツールの導入 (iphone、ipad) |
| 既存サービスの周知 | <ul style="list-style-type: none"> システムについて知ってもらう為の勉強会の開催 | <ul style="list-style-type: none"> 知恵袋的な掲示板の導入と運用 使い方の啓蒙活動 | |
| 情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> 研究者情報の発信 良い授業の公開化 他部署と連携した業務をスムーズに行う為のシステムの統一化 現場から出ている要望を広く知ってもらう | | |
| 教職員へのコミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> 最新技術を導入可能か検討出来るようにし、教員と協力して実験が出来る体制をつくる 教員間や職員間での最新技術のサポートや活用の情報交換をする場所を提供する | | |
| 経営層とのコミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> 上層部へ理解してもらえるように普段から情報共有を行う | | |